

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回図書館協議会
開 催 日 時	令和5年2月10日(金) 午前・ <input type="checkbox"/> 午後 2時00分から 午前・ <input type="checkbox"/> 午後 3時50分まで
開 催 場 所	吉川市役所 301、302会議室
出席委員(者)氏名	小林央士・若林元城・岡田三津子・野上文子・坂田洋美・嶋田曜子 木村嘉男・大見山琢生(敬称略)
欠席委員(者)氏名	佐々木絹子(敬称略)
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長:岩上勉 同主査:山崎弘輝 同主事:笹原康友 市立図書館 館長:竹林聡 同チーフ:森田幸子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 令和4年度利用者満足度調査結果について (2) 令和5年度事業計画(案)について 4 その他 5 閉会 <p style="text-align: right;">【全て公開】</p>
非公開の理由	なし
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	・次第 ・ <input type="checkbox"/> 資料1 令和4年度利用者満足度調査結果報告書 ・ <input type="checkbox"/> 資料2 令和5年度事業計画書(案)
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	嶋田曜子・大見山琢生(敬称略)
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局	1 開会
	2 開会のあいさつ
木村会長	- 会長あいさつ -
	3 議事
	(1) 令和4年度利用者満足度調査結果報告書について
木村会長	事務局より説明願う。
事務局	資料1に基づき説明
木村会長	事務局の説明に対して、意見や質問はあるか。
大見山委員	電子図書館について質問する。そもそも電子図書館とはどんなイメージのものか。
事務局	電子書籍を格納しているサーバー(電子図書館)から、利用者が借りるというものである。
大見山委員	どこにいても自身のスマートフォン等でコンテンツの閲覧ができるのか。それとも市立図書館等の決まった場所に行く必要があるのか。
事務局	通信環境がある場所であれば自身のスマートフォン等で閲覧が可能であり、図書館に来館せずに読書をすることができるのが電子図書館の特徴である。
野上委員	資料1より、「電子図書館の導入についてどのように思いますか」という設問の回答の6割が「分からない」ということだが、これまでどういった広報をしていたのか、またこれからどういった広報をしていくつもりか。
事務局	吉川市では現在電子図書館を導入しておらず、広報等は行っていない。改めて電子図書館について説明する。 先ほどお伝えしたとおり、図書館に来館せずに自身のスマートフォン等でコンテンツの閲覧が可能なことに加え、電子書籍なので経年劣化がないこと、また、借用期間が決まっているため延滞なく貸し出しができるといったサービスも電子図書館は備えている。一方で、貸し出し回数に限度があり、限度に達した場合はサーバーから本が無くなり読めなくなることや、購入してから2年を経過すると本がサーバーから無くなり、再度購入する必要があるといったことも現実の図書館との違いである。また、最近は大手企業のインターネット販売において電子書籍が豊富に揃えられており、電子図書館でも様々な書籍を読むことができると思われるかもしれな

事務局	<p>いが、実際に電子図書館用に準備されている電子書籍はまだまだ少ない状況である。電子書籍になり利便性が高くなるだろうという感覚で電子図書館を導入するとうまくいかないと考えている。実際の利用者が読みたいジャンルと用意ができるジャンルの需要と供給を把握し、一部のジャンルだけを導入するといった、費用対効果を見定めながら導入の仕方について検討する必要があると考える。</p> <p>そこで、今回は初めて利用者満足度調査にて設問をし、図書館を利用されている方々が電子図書館にどれだけ興味があるのか確認させていただきたく質問したものである。</p>
野上委員	<p>資料1の説明の中で、越谷市、三郷市でも電子図書館を導入しているということだが、どちらの市もジャンルを絞って導入しているか。また、越谷市、三郷市の利用者の実績についても分かれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>利用者の実績について、公にされていないため把握はできていない。ジャンルについても絞っているかは定かではないが、導入しているジャンルについてはHP等で検索をすれば調べることは可能である。また、資料1の「青空文庫を主としながら、最新の電子書籍は高額なため、ある程度ジャンルを絞る等の工夫が必要と考えています。購入して欲しいと思うジャンルをお答えください。」という設問で、人文書や文芸書を読みたいという回答が40%を超えている。非常に参考になる結果となったが、作家によっては電子書籍にしたくないという方もいる。ある著名作家の本は図書館で貸し出しするのに50人待ちをするなど、1年経っても借りられない現状のなか、電子図書館になればそういった電子書籍が読めるかということ、そもそも電子書籍にしていないため読むことができないという状況も起こり得る。他にも、紙の書籍を購入する際は大体1,500円程度で済むが、電子書籍は高額で導入したい本を選別しなければならない現状である。</p> <p>そこで、青空文庫という著作権が切れ誰でも無料で読むことができる古い本を主として、電子図書館に導入している自治体が多いなか、利用者としては電子図書館が開館されどんなジャンルが読めるのかと見ると、古い本しか扱ってなく、中々盛り上がっていないという他自治体の事例を確認している。青空文庫の他にどんなジャンルを導入するか、そのジャンルは電子書籍が存在するか、実際の利用者のニーズはどういったものを把握することが電子図書館導入の成否の分かれ目となると考えている。現在、図書館を利用されている方が電子図書館も利用いただく可能性は高いと考えおり、その中で、メリット、デメリットがあることをしっかりと周知</p>

<p>事務局 木村会長 小林副会長</p>	<p>しなければならないと考えている。</p> <p>他に質問はあるか。</p> <p>私も文庫本派であったが、最近、雑誌を読む際は電子書籍を活用している。雑誌はいつまでも取っておくものではないため、場所を選ばずに読むことができ、発売日に購入が可能という面から非常に便利に感じそのようにしている。満足度調査結果には「雑誌類の充実を望む」という回答もあることから、電子図書館を導入する際、雑誌のジャンルについては電子書籍にするのはいかがか。また、私が図書館に行くのは、その空間を楽しむことを目的に行くことが多い。社会的促進という言葉のとおり、家よりも図書館といった場所で勉強するほうが捗ることや落ち着いて読書ができるのは、図書館という場所があり、そこに人が集まるからだと考える。しかし、雑誌類に関しては情報を得たいという要望が強いのではないか。雑誌類は電子書籍に、図書館は蔵書の充実を図ることや駐車場の増設をするなど、満足度調査結果に沿って改善していくことがお客様の満足度の向上に繋がると考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>他市町の図書館では、ある企業と法人契約し雑誌類に関して電子書籍でいつでも読めるようにしているという事例もある。出版業界的にも雑誌類の落ち込みは書籍以上に厳しく、長い歴史のあった週刊誌が休刊に追い込まれるなど雑誌自体が出回らなくなっている。また、業界的にも紙書籍から電子書籍に変更しようといった流れがあるようで、紙書籍で読めないものは、電子書籍でしか読めなくなるといったことが増えてくると考えられる。そういった流れに既存の図書館も併せていくよう検討しているところである。</p>
<p>小林副会長</p>	<p>市立図書館で貯蔵していない本は県立図書館などで借りることができるが、その際は2週間限定で読み切れない。年代が古い本は取り扱いが少ないと感じるので、そういったものも電子書籍にしてみたいはいかがか。電子書籍はあくまで補助的な役割であり、現在、図書館を利用されている方は本を読みに来たいという方が多いのではないか。今ある図書館のサービスの充実を図ることが第一だと考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見感謝する。</p> <p>書籍を電子化する判断については各出版社が行うものである。現在、国立国会図書館では絶版になった本を自宅で読めるサービスというものを始めており、図書館としてはそういったサービスの周知を進めようとしている段階である。また、小林副会長がおっしゃるとおり、既存施設のサービス向上を念頭におきながら、電子図書館との併用ということを検討する。</p>

嶋田委員	電子図書館の導入は、現在図書館を利用していない若い世代や障がい等をお持ちで、図書館に足が運びにくい方へ向けたチャンスではないかと考える。また、電子書籍には自動音声といった機能はあるか。もしあるのであれば、より多くの人に書籍に触れる機会を作ることができると思う。
岡田委員	私は音訳ボランティアのサークルに参加している。現在、点字の本を借りる場合は図書館に行き登録が必要となる。その登録をするためにも、ヘルパーさんやボランティアの力を借りなければならない。その登録の壁を乗り越えられず、本を借りることを諦めたという話を伺ったことがある。嶋田委員の意見とリンクするが、図書館のサービスの見直しと、目の不自由な方も利用できるような電子図書館というものの導入を検討いただきたい。
事務局	電子書籍において自動音声で読み上げることは可能である。また、電子図書館は非来館型のため、高齢者や障がい者の方など、図書館で本を読みたくてもできなかった方に向けては大きな可能性があると考えます。
木村会長 事務局	電子図書館の導入については、どうしていくか模索中ということか。 近隣でも電子図書館の導入が始まっていて、成功事例もあれば失敗事例もあることを確認している。例えば、ある県立図書館では全国に先駆けて電子図書館を導入したが、経費がかかることや利用率等を考慮した結果、電子図書館を止めたという事例もある。仮に導入するとなった場合、そういったことは避けなければならない。様々な導入事例を参考にし、電子図書館の利用率の高い自治体がどういった運用をしているのか注視しているところである。事務局としては経費がかかっても読みたい本を整備したいと考えているが、予算の兼ね合いもあるため、予算のスリム化を図りながらジャンルを絞った導入ということが可能かどうか含めて検討をしている。
木村会長	他に質問はあるか。
大見山委員	昨年度の利用者満足度調査結果を受けて、重点改善項目や重点維持項目をあげて業務に取り組まれたかと思うが、その成果は。
事務局	改善項目は、要望があった書籍やジャンル毎の書籍を購入するなど、資料面の充実を図った。また、駅前サービスセンター4階の多目的ホールの利用について、これまでは先着順で予約を受けていたものを、調整会を経て予約を確保する仕組みに変更し、多くの方に平等に利用できるようにした。 維持項目としては、HP での本の予約方法が分からないといった声を受け、昨年、

事務局	広報よしかわ11月に図書館について特集を組んでいただき、図書館の利用について周知するなど情報提供の充実を図った。
大見山委員	改善項目、維持項目は図書館と市の方で協議しながら、更に良い施設運営を目指していただきたい。 1点気になったのだが、昨年度、今年度と資料1の説明にて、視聴覚ライブラリーに自動販売機と駐車場がないという話だが、そもそもないものに関して「使いやすい」「使いにくい」という評価ができないのではないかと。設問を設けてしまうと、それだけで全体の評価が下がってしまうと考える。今後、この部分に関しては自由記入等にして回答いただくのはいかがか。
事務局	設問の内容については見直しを図るよう調整させていただく。
	(2) 令和5年度事業計画(案)について
木村会長	事務局より説明願う。
事務局	資料2に基づき説明
木村会長	事務局の説明に対して、意見や質問はあるか。
野上委員	意見ではないが、昨年、始めて英語クリスマス会を開催し大変好評だった。その中で、図書館職員の方の発想力や動き方がとても素晴らしく、講師として安心してイベントを実施することができた。この場を借りて感謝申し上げる。
木村会長	資料2の説明を受け、令和5年度もイベント等が充実しており本以外の目的でも来館できるように意識しているのかと思うが、いかがか。
事務局	「サードプレイス」として、本以外の目的で来られても居心地の良い場所を提供できるよう、日頃から努めている。
岡田委員	1階のブラウジングコーナーについて、展示の公開をするなど工夫しながらスペースを活用されているが、私たちのような高齢に近づいている者にとって、本を読んだりするには少し暗いと感じている。「サードプレイス」として、シルバー世代の憩いの場というものを作っていただきたい。また、以前孫が宇宙の本を読みたいと言って図書館に相談したところ、たくさんの本を紹介していただきとても喜んでくれた。野上委員同様、図書館の職員には大変お世話になり感謝申し上げます。
大見山委員	昨年の会議でも、岡田委員は照明についておっしゃっていたと記憶している。高齢化社会の昨今において、そういった意見に耳を傾けることは必要なことと思う。
事務局	令和5年度に市民交流センターおあしすの中規模改修を予定しており、図書館にお

事務局	<p>いて全ての照明をLED化する予定である。また、ブラウジングコーナーについて現在は郷土コーナーというスペースを設けているが、資料2でお伝えしたとおり、「郷土吉川の魅力再発見」として吉川市出身の方が執筆されたものの展示や、市民の方が勧める本の紹介の場を作るなど、更に興味を持っていただけるような活用方法について検討しているところである。</p>
木村会長	<p>他に質問はあるか。</p>
若林委員	<p>市内の幼稚園で園長をしている。図書館の職員の皆様には読み聞かせに来ていただくなど日頃からお世話になっている。先日も来園いただき、その際は読んだ本を一覧にしたチラシをいただき、子ども達がまた読みたい、図書館に行きたい、と足を運ぶきっかけとなるような工夫をしていただいた。先ほど、電子書籍という話もあったが、児童書や絵本は作家の方が形から質感までこだわりを持って作られており、電子書籍では伝わらない感覚というものがあるかと思う。今後は電子書籍というものは切り離せないものになるかと思うが、予算というものを考慮しながら上手く併用していくことが必要だと考える。また、市単位で導入が難しいのであれば、例えば5市1町という大きな組織で運用するといったことも考えてみるのはいかがか。</p>
事務局	<p>電子図書館について基本は自治体単位で導入していることが多いが、埼玉県でも市町が連携して行っている地域があることや、他県では県が主導して導入し、県内全市町が使える共同電子図書館を運用していると確認している。これらの事例を参考にしながら導入について検討する。</p>
若松委員	<p>出版業界も活字離れや、書籍が売れないといった問題があるかと思う。吉川市に限った話ではないが、出版業界と図書館の協力や、図書館同士の横の連携を駆使してこの苦しい状況を打破していただきたいと思う。</p>
事務局	<p>出版業界全体の売り上げをみると、1997年をピークにずっと右肩下がりとなっている。その中で、電子書籍はコミックを中心に大幅な伸びを示している。各出版社の決算概要を見ると、紙書籍の売り上げは全体の半分に満たないという結果となっている。出版社としては個人に向けての電子書籍と、電子図書館で扱う電子書籍の拡充といったことが、今後の収益構造の軸になるのではないかと想定している。最近では、紙の最新刊を出すと同時に電子書籍を扱っているサイトで販売することが常態化している。今後は、電子図書館分も遅れながら価格も抑えられた状態で販売されていくなど、電子図書館導入のハードルも下がっていくのではないかと考え</p>

事務局	る。
大見山委員	以前、出版社に勤めていたが、全国の書店の件数もピーク時に比べると半分以下になっている。出版業界は雑誌で回っていた部分もあるため、その売り上げが減ると業界全体の元気がなくなってしまうのが実状である。その中で、図書館を利用する一市民としては、新刊の導入というものに力を入れてほしいと思っている。
若松委員	嶋田委員もおっしゃっていたが、若い世代を引き込むには、電子書籍のような便利なツールというものが不可欠かと思う。予算の兼ね合いもあるかと思うので、バランスを見ながら検討いただきたい。
木村会長	他に質問はあるか。
事務局	小林副会長に質問となるが、現在、生徒たちがタブレットを持つようになり、それを用いて図書館、電子書籍と連携するというのは可能か。
小林委員	今後、電子書籍というものは浸透していき、学校としても変化があれば協力して進めていきたいと考えている。そして、持論にはなるが、図書館の役割というのは、学校で例えるなら図書室だけではなく、保健室や相談室の役割も果たしていると考えている。学校における保健室の役割というのは非常に重要だと考えており、学校の中で非学校空間ということがとても大切である。評定者である先生には打ち明けられないことも、養護教諭や、相談員には話せるといったこともある。とても重要な役割である。私は、図書館という場所はそういった機能を持ち合わせていると考えており、日常生活に疲れたときに図書館にいつて癒される空間がある、まさに「サードプレイス」を多くの方が求めていると思う。子どもが学校に来るのは、勉強や運動ができるようになることもそうだが、居場所があることが一番大切なことである。これを電子図書館で置き換えると、電子図書館は書籍を読むということは満たせるが、自分の居場所を作るという面では満たせない。本が置いてある図書館があるということは、市民の方にとっては安心につながる。図書館に行けば、本がたくさん並んでいて、手に取ってみることができるなど、電子にはない、図書館の良さをこれからも大事にしてほしいと思っている。
事務局	ご回答いただき感謝する。
嶋田委員	私はおはなし会に属しており、本は読むためのものだが、読み繋いでいくものでもあると考える。両親の声と言葉で読まれたものがその子にとっては本との出会いであり、始まりであると考えている。本を手を持つ、触る、感じる、そういった体験ができる場所は図書館であり、お母さんたちにとってもそういった場は大切だと思う。

<p>木村会長 事務局</p>	<p>他に質問はあるか。 事務局より追加報告させていただく。 吉川の図書館の歴史を振り返ると、大正12年に町営住宅に吉川町立吉川図書館が設置された年から換算すると、今年は節目の100年となる。図書館では、100周年にちなんだイベント実施を検討している。</p>
<p>木村会長</p>	<p>他に質問はあるか。 - 質問無し -</p>
<p>木村会長</p>	<p>それでは議事を終了とする。 4 その他</p>
<p>小林副会長</p>	<p>満足度調査の設問について、「あなたは吉川市立図書館に何を求めていますか」といった自由記入欄を設けるのはどうか。電子書籍のことや、本が備わっている空間を求める声など、図書館経営がやはり重要なんだという視点が出てくるかと思う。参考にしていただければと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見感謝する。今後の施設運営により活かせるような設問内容を検討させていただく。 - 生涯学習課長あいさつ -</p>
<p>小林副会長</p>	<p>5 閉会のあいさつ - 副会長あいさつ - (午後3時50分終了)</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p>	
<p>令和5年3月29日</p>	
<p>署名委員 嶋田 曜子 (自著) 署名委員 大見山 琢生 (自著)</p>	